

研究課題	2.3 高頻度衛星雲観測を活用した急速に発生発達する降水系に関する研究
研究期間	平成 27 年度～平成 28 年度（2 年計画第 1 年度）
実施官署	東京管区气象台及び水戸、宇都宮、熊谷、横浜地方气象台
担当者	（東京管区气象台） ○林 広樹
担当研究官	〔予報研究部〕 大塚 道子
目 的	急速に発生発達する降水系の事例に関し、診断的予測グループが提供している豪雨事例解析マニュアルを用いて解析を行い、高頻度衛星雲観測資料を用いてその降水系の発生タイミング、発達の状況、及び衰弱タイミングや移動の状況等について解析、検討を行う。実況監視の観点から、現象の発生発達等についてレーダー観測資料等との比較を行い、高頻度衛星雲観測資料を用いることにより、より早く現象を捉えることができないか調査を行う。これらを纏めることにより、新たな知見の共有と、実況監視手法の作成、改善を行うことを目的とする。また、平成 27 年度から観測開始となるひまわり 8 号による、より高頻度・高解像度のデータの利用に向けての基礎知識習熟も目的とする。
目 標	急速に発生発達する降水系の実況監視手法の作成、改善を行うとともに、防災気象情報のリードタイム改善に資する事例について纏める（事例集）ことにより、知見の蓄積、共有を目標とする。
研究の概要	・高頻度衛星雲観測の基礎知識及び利用方法の習熟。 ・調査事例の選定。 調査事例の対象は関東地方における夏季の不安定降水、シアラインに伴う降水のうち急速に発生発達した事例を対象とする。 ・豪雨事例解析マニュアルを用いた環境場の解析。 ・高頻度衛星雲観測を活用した解析。 発生、発達、衰弱のタイミングおよびライフサイクル、現象の移動方向又は停滞、新たな降水セルの発現について解析する。 ・レーダー観測資料と高頻度衛星雲観測資料の比較により、現象を早期に捕捉できる可能性について検討する。 ・実況監視手法の作成、改善を検討する。
平成 27 年度 実施計画	【東京管区】 ① 高頻度衛星雲観測に関する基礎知識及び利用方法の習熟。 ② 対象とする急速に発生発達し大雨をもたらす降水系の事例選定。 ③ 豪雨解析事例マニュアルを用いた環境場の解析。高頻度衛星雲観測資料を活用した解析。レーダー観測資料と高頻度衛星雲観測資料の比較調査。 【気象研究所】 上述①～③の助言・指導を行う。
波及効果	・現象のライフステージを把握できることにより、より適時的確な防災気象情報の提供が見込まれる。また、地方公共団体への実況及び今後の予想の情報提供においても、よりきめ細かい解説が見込まれる。